

新産業創出！輝く宮崎力

(みやざきぶらんど)

宮崎県座談会

農商工連携の推進を……米良氏



宮崎県商工会議所
連合会会頭

米良 充典氏

「皆さんの現状をお聞かせ下さい。」
米良 宮崎県商工会議所連合会は、農商工連携を積極的に推進していきたいと考えている。宮崎大学や県の支援の下、農業協同組合や漁業、林業、商工関係者それぞれが知恵を出し合い、第1次産業の活性化に取り組んでいく。11月には宮崎県西口に完成する複合ビ

ル周辺でみやざき観光コンベンション協会(宮崎市)などと協力して、国際夜市などのイベントを実施する。同市では地産地消の県内農産物や韓国、中国の物産販売も検討しており観光産業とも絡めた取り組みにしたい。また畜産業では、口蹄疫の影響で既存ブランド豚の育成支援とともに、加工・流通過程で新商品開発なども支援していく。

産学のネットワーク構築を……松居氏



宮崎県工業会会長
(旭化成上席執行役員
延岡支社長)

松居 龍氏

〇(同)を事務局に「みやざき産学連携研究会」が設立された。「ロボット・メカトロニクス」「環境・資源・リサイクル」「新エネルギー」など7分野で研究会が組織され、技術・研究シーズを持つ宮崎大、都城高専教員と県内企業とのネットワーク作りを支援している。県が推進する東九州メディカルバレー構想に力を入れ、今後も県内企業のアイデアをビジネス展開する支援に取り組んでい

る。東九州メディカルバレー構想策定に基づき、同市も11年2月に健康長寿のまちづくりを目指して「メディカルタウン構想」を策定。市を挙げて構想を後押しする体制も整った。単に医療分野だけでは突破出来ない社会的問題も、商工業など力を合わせて突破していきたいと考えている。

富 当社は昭和シェル石油の全額出資子会社でCIS(銅、インジウム、セレン)薄膜太陽電池モジュールを製造販売する。73年

のオイルショックをきっかけにエネルギーを石油だけに頼らない、代替エネルギーの研究開発が始まる中、78年太陽電池の研究開発に着手した。当初は結晶系アモルファス系太陽電池を研究開発、販売したが、現在はCISといった特殊材料を使って製造している。05年商品化を決定。06年当社前身の昭和シェルソーラーを設立した。07年旧田野町(現宮崎市)に年産20メガワットの第1工場を建設。09年約15億円で旧清武町(同)に年産60メガワットの第2工場を建設し、商業生産を始めた。約100億円を投じて国富町に建設した年産900メガワットの第3工

場は、11年4月開所式を行った。第3工場は7月から全ライン順調に稼働している。また世界の太陽電池市場の動向は、10年に約17%の需要があり、14年は30%に伸びるといわれる。一方国内需要は、10年で1ギワット。当社3工場を合わせた国内シェアは全てをまかなうことができる計算だ。今後国が検討する自然エネルギーの全量買い取り制度が進めば、国内需要は14年に2・3倍になるといわれている。さらに世界の太陽電池生産はアジアがけん引する。中国、台湾、韓国で新規参入や新工場建設が相次ぎ、ますます競争激化は避けられない。当社もここ1、2年が勝負だと考えてい

る。県内中小の漬物製造業者34社が数字を作り出しており、九州では1位だ。和歌山といえるように、宮崎といえは干し生も生も含めて「たくあん」といわれる全国ブランドを目指したい。ただ和歌山の梅干しは原料を国内で約6割、約4割を海外から輸入する現状。本県はダイコンやラッキョウなど、ほとんどに県産野菜を使用している点が強みだ。本県の畜産を含めた農業産出額は約3100億円あるが、それは別に農産物加工分野です。延岡市で農商工連携で頑張っている漬物業界があることをぜひ知っていただきたい。

医療機器の生産拠点に……池ノ上氏



宮崎大学理事・病院長

池ノ上 克氏

り、新たな雇用も生まれる。東九州メディカルバレー構想策定に基づき、同市も11年2月に健康長寿のまちづくりを目指して「メディカルタウン構想」を策定。市を挙げて構想を後押しする体制も整った。単に医療分野だけでは突破出来ない社会的問題も、商工業など力を合わせて突破していきたいと考えている。

富 当社は昭和シェル石油の全額出資子会社でCIS(銅、インジウム、セレン)薄膜太陽電池モジュールを製造販売する。73年

のオイルショックをきっかけにエネルギーを石油だけに頼らない、代替エネルギーの研究開発が始まる中、78年太陽電池の研究開発に着手した。当初は結晶系アモルファス系太陽電池を研究開発、販売したが、現在はCISといった特殊材料を使って製造している。05年商品化を決定。06年当社前身の昭和シェルソーラーを設立した。07年旧田野町(現宮崎市)に年産20メガワットの第1工場を建設。09年約15億円で旧清武町(同)に年産60メガワットの第2工場を建設し、商業生産を始めた。約100億円を投じて国富町に建設した年産900メガワットの第3工

場は、11年4月開所式を行った。第3工場は7月から全ライン順調に稼働している。また世界の太陽電池市場の動向は、10年に約17%の需要があり、14年は30%に伸びるといわれる。一方国内需要は、10年で1ギワット。当社3工場を合わせた国内シェアは全てをまかなうことができる計算だ。今後国が検討する自然エネルギーの全量買い取り制度が進めば、国内需要は14年に2・3倍になるといわれている。さらに世界の太陽電池生産はアジアがけん引する。中国、台湾、韓国で新規参入や新工場建設が相次ぎ、ますます競争激化は避けられない。当社もここ1、2年が勝負だと考えてい

る。県内中小の漬物製造業者34社が数字を作り出しており、九州では1位だ。和歌山といえるように、宮崎といえは干し生も生も含めて「たくあん」といわれる全国ブランドを目指したい。ただ和歌山の梅干しは原料を国内で約6割、約4割を海外から輸入する現状。本県はダイコンやラッキョウなど、ほとんどに県産野菜を使用している点が強みだ。本県の畜産を含めた農業産出額は約3100億円あるが、それは別に農産物加工分野です。延岡市で農商工連携で頑張っている漬物業界があることをぜひ知っていただきたい。

る。県内中小の漬物製造業者34社が数字を作り出しており、九州では1位だ。和歌山といえるように、宮崎といえは干し生も生も含めて「たくあん」といわれる全国ブランドを目指したい。ただ和歌山の梅干しは原料を国内で約6割、約4割を海外から輸入する現状。本県はダイコンやラッキョウなど、ほとんどに県産野菜を使用している点が強みだ。本県の畜産を含めた農業産出額は約3100億円あるが、それは別に農産物加工分野です。延岡市で農商工連携で頑張っている漬物業界があることをぜひ知っていただきたい。

宮崎県産業の強み 課題について

「宮崎県産業の強み、課題とは何でしょうか。」
吉田 当社が進出した背景は、太陽電池生産工程に似た半導体関連企業が立地し、優秀な人材が豊富だからだ。国富町の第3工場は現在、従業員約800人体制で稼働している。製造する製品はヨーロッパを中心

にアメリカや東南アジアなど海外へ輸出している。一方、国内販売はこれから。国で検討している自然エネルギーの全量買い取り制度が進むかどうか国内需要を左右する焦点となる。特に本県のように日照時間が長く、太陽がサンサッと輝く地域は需要が大き

い。各電力事業者もピークカットの事業もピークカット時の投資を少なくさせることができるのではないだろうか。松居 県北地区の強みを本業の旭化成の取り組みから紹介すると、延岡市は旭化成発祥の地。旭化成は11年5月に15年までの5カ年計画で新中期経営計画を発表した。基本戦略は「健康で快適な生活」「環境との共生」に経営資源を集中する。昨日まで世界になかったものを作り、グローバルリーディング事業を展開、ス、デバイス部品工場では

新しい社会的価値の創出を目指す方針だ。当社は九つの事業会社と持ち株会社に分かれているが、これをもう少し横断的に結集してグループ総合力を高めていく。これからの「環境・エネルギー」「住・くらし」「医療」の、この三つのグループ融合プロジェクトで新しいものを作っていく。日向市の工場ではパソコンや携帯電話に使うリチウムイオン電池のセパレーターを製造する。延岡・日向市にあるエレクトロニクス、デバイス部品工場では

カーナビやスマートフォン(多機能携帯電話)などに使われる電子コンパスが好調だ。延岡市には旭化成クレンジングや旭化成メディカルが取り組む人工腎臓などの血液浄化療法は、世界で注目を集めており、透析医療システムで世界トップシェアを目指している。東九州メディカルバレー構想の一員として、透析技術者など臨床工学の専門家を育成していきたい。

【お問い合わせ先】
宮崎県央地区企業立地促進協議会
TEL/0985-26-7096 FAX/0985-26-0219

宮崎市工業政策課 TEL/0985-21-1793 FAX/0985-28-6572
e-mail:17kigyo@city.miyazaki.miyazaki.jp

宮崎市東京事務所 TEL/03-3234-9777 FAX/03-3234-9776
e-mail:KYJ03702@nifty.ne.jp

メイド・イン・宮崎。

宮崎の大地と太陽の豊かさが育むどこか懐かしい素朴な味わい。
宮崎県産干し大根を100%用いた「たくあんづくり」を、私たちは大切にします。

ひなた
日向漬 本舗
道本食品株式会社

宮崎県宮崎市田野町甲1667
TEL 0985-86-0006
FAX 0985-86-1122
http://www.hinatazuke.co.jp

県内随一の工業集積地 延岡市

クレーパーク延岡工業団地第2工区 平成23年3月完成



熊本、大分両県を臨む県北の拠点、大学と県内随一の工業集積地を背景とした市街地隣接型工業団地



所在地	延岡市天下町(あみまち)
事業主体	延岡市
総面積	約125,000㎡(約12.5ha)
分譲面積	約110,000㎡(約11.0ha)
分譲価格	10,000円/㎡
現況	平成23年3月末造成終了
交通アクセス	延岡IC 隣接 佐伯IC 67km 高鍋IC 60km 国道10号 6.2km 延岡218号 1.6km 宮崎空港 96km JR延岡駅 6km 延岡港 26km 高圧供給(66kV) 0.1km 特別高圧(66kV) 0.4km 延岡変電所 3.6km
電力	

用水	上水道 2,000m ³ /日 工業用水 10,000m ³ /日(見込み)
排水	延岡市公共下水道
建築基準	建ぺい率 60% 容積率 200%
地域指定	企業立地促進法同意集積区域 (県)企業立地促進補助金
県・市の補助金等	(市)雇用促進奨励金 用地取得助成金 他
税制の優遇	固定資産税課税免除又は不均一課税 (県)企業立地促進交付金 創業・新分野進出支援交付金
県・市の融資制度	(市)地域総合整備資金

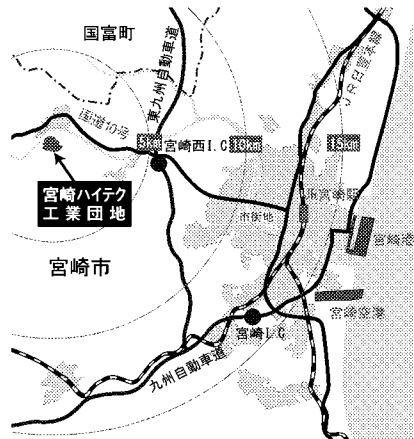
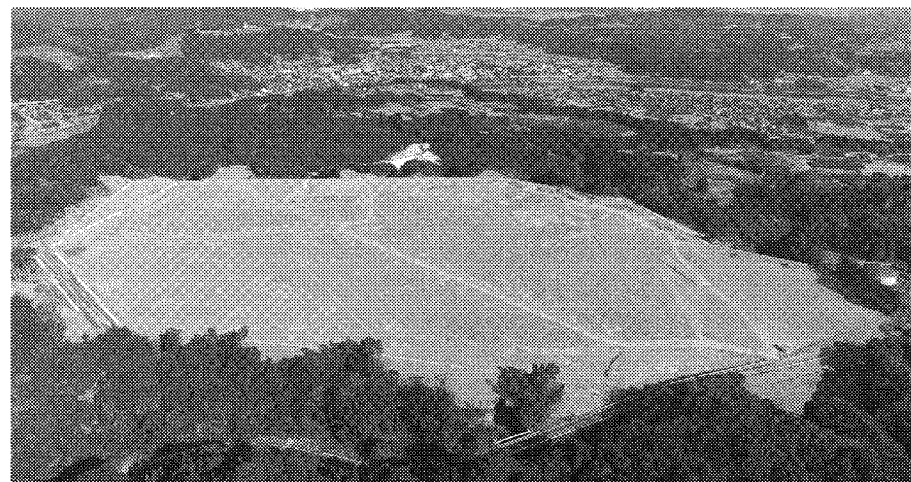
平成23年4月現在

【お問い合わせ先】 延岡市工業振興課

TEL/0982-22-7035 FAX/0982-22-7080
http://www.city.nobeoka.miyazaki.jp e-mail:kougyo@city.nobeoka.miyazaki.jp

御社のパートナーとしての「活力と緑あふれる太陽都市…みやざき…」

宮崎ハイテク工業団地(有効面積22ha) 平成23年3月完成



所在地	宮崎市高岡町高浜
事業主体	宮崎市土地開発公社
総面積	約38ha
分譲面積	約22ha
分譲価格	約11,000円/㎡
現況	造成工事済
交通アクセス	高速道路 5km 宮崎IC 14km 東九州自動車道 10号 宮崎空港 16km JR宮崎駅 13km 宮崎港 16km 高圧供給(66kV) 近隣 特別高圧(66kV) 4.4km 上水道 300m ³ /日 工業用水 10,000m ³ /日(見込み)
排水	企業→排水路→大淀川→日向灘

1 市街地近接型の 大規模工業団地

宮崎市の中心部から西へ約12kmと、雇用の確保や通勤に恵まれています。

2 優れた交通アクセス

高速道インターから約5km、宮崎空港・宮崎港から約16kmと輸送条件に恵まれており、東京・大阪・名古屋は、日帰りビジネス圏内です。

3 充実した支援制度・ 低価格の土地

低価格の土地(約11,000円/㎡)を企業様のニーズにあわせてレイアウトをすることができます。また、雇用人数や投資規模(土地取得費を含む)に応じ、充実した助成制度をご用意しています。

【お問い合わせ先】
宮崎県央地区企業立地促進協議会
TEL/0985-26-7096 FAX/0985-26-0219

宮崎市工業政策課 TEL/0985-21-1793 FAX/0985-28-6572
e-mail:17kigyo@city.miyazaki.miyazaki.jp

宮崎市東京事務所 TEL/03-3234-9777 FAX/03-3234-9776
e-mail:KYJ03702@nifty.ne.jp